

# 世界各地のユダヤ人に福音を！

## 1: 世界各地のユダヤ人の中での福音宣教が前進しますように！

- イスラエル国内と離散地で、福音を聞くユダヤ人一人ひとりの耳と心が開かれるために
- 各国にいる、まだ福音を聞いたことのないユダヤ人たちに福音を聞くチャンスが与えられるように
- 以前に福音を聞いたり読んだり、トラクトや新約聖書を受け取ったりしたユダヤ人に、今、聖霊が注がれて真理を見ることができるようになるように

## 2: ユダヤ人宣教に励む団体や教会の働きが守られ、広がるように

- ユダヤ人がいる世界のあらゆる場所に福音を届けるために活動する団体が祝福され、十分な資金が集まり、新しい働き人が常に育てられ、訓練を受けて適切などころに派遣されるように
- 日本各地でユダヤ人宣教に励んでいる団体（チョーザン・ピープル・ミニストリーズ日本支部、各地のユダヤ人用ゲストハウス、案内ミニストリーなど）に十分な人や資金が集まるように
- 日本各地に、イスラエル人や離散地のユダヤ人をもてなし、宿泊させるキリスト者が現れるように
- 全てのユダヤ人伝道団体の指導者にビジョンが与えられ、また、後継者が与えられるように

## 3: ユダヤ人に福音を届ける一人ひとりの祝福と守りのために

- ユダヤ人との出会いが与えられるために
- ユダヤ人に福音を伝える全ての人に聖霊の助けがあり、愛と勇気と忍耐が与えられるように
- ユダヤ人とコミュニケーションする時に、相手に応じて語るべき言葉が与えられるように
- 路傍伝道、訪問伝道、また、電話、SNS、ホームページ、動画、インターネットでの伝道のために
- 宣教スタッフの健康と安全のために
- ユダヤ人伝道に関わる人々を、教会が霊肉両面でサポートできるように

## 4: イスラエルとユダヤ人が守られるように

- イスラエル国民と、特にメシヤニック・ジューの共同体が守られるように
- アラブの人々がユダヤ人を憎み、殺そうとすることをやめるように
- 全世界で反ユダヤ主義が無くなるように
- エルサレムの平和のために（詩篇 122:6）

## 5: 世界のLCJEネットワークのために

- 各地（イスラエル、ヨーロッパ、北米、中南米、オーストラリア、南アフリカ、西アフリカ、中国語圏、韓国）のLCJE支部のために
- 各支部の集会、ネットワーク構築、必要な連絡、所属団体間の情報交換の向上、励ましのために
- 全てのリーダーのために、ダン・セレド会長、ジョセフ・スタインバーグ国際コーディネーター、ティム・シグラー師、レイチェル・デイビス師（国際運営委員）、ローザンヌ運動との連携（ダン・セレド師、ボディル・スキヨット師）

## 6: LCJE日本支部のために

- 現在のLCJE日本支部のリーダーたちにビジョンが与えられ、また、後継者が与えられるように
- 対面の祈り会と、オンライン祈り会に多くの人が集い、一緒に祈ることができるように
- 日本各地の教会、教団、バイブルカレッジ、神学校、聖書学院にLCJEがつながりを作るために
- 機関紙のために（12月号が編集中です。記事執筆のために、また、印刷費と奉仕者のために。）

### <<今月の特別な祈りの課題>>

- シティ・バイブルのために（無事に各地の拠点まで配送されました。今後の配布に必要な資金のために、また、ユダヤ人から妨害が入らないように。）
- 2026年東アジアユダヤ人宣教カンファレンスのために（計画作り、資金繰り、協力スタッフのために、場所、宿泊、安全、宣伝、カンファレンスを支える教会が与えられるように）

# Jerusalem City Bible

## 訪日ユダヤ人に福音を伝えるために

日本を訪れるユダヤ人は近年急増しています。彼らに福音を伝えるために作られたのが、訪日ユダヤ人向けエルサレム・シティ・バイブルです。ヘブライ語版と英語版があり、相手に応じて使い分けていただけます。いずれも日本的な表紙図柄と、以下のような日本とユダヤ人の関係を紹介する紹介文が冒頭に印刷されています。

\*以下の細い字で印刷した説明文は、この聖書を用いられる日本のクリスチャンのための追加情報です。

この聖書を作ったのは各国語の伝道用新約聖書を制作している Jerusalem City Bible 財団です。同財団は複数の宣教団体の協力で運営されていますが、その一つがライフ・イン・メサイアで、その日本窓口を務める石黒イサク師(美濃ミッション牧師・LCJE 日本支部運営委員)の熱心な働きかけで、このプロジェクトが実現しました。

日本国内におけるこの聖書の配布・配送は、ローザンヌ・ユダヤ人伝道協議会(LCJE)日本支部が行っています。ユダヤ人に福音を伝える目的であれば、無償で提供させていただきます。しかし、輸送料金など多くの経費をLCJE 日本支部が負担しているため、祈りと共に、献金で私たちの活動を支えていただけましたら幸いです。

**郵便振替 LCJE日本支部 00950-4-25633**  
541-0041 大阪市中央区北浜 2-3-10 VIP 関西センター3F  
TEL/FAX: 072-867-6721  
lcjehome@gmail.com <http://www.lcjejapan.com>

## 日本とユダヤ人の、あまり語られない物語

ようこそ日本へ！ 私たちはユダヤ人を愛する日本のクリスチャンです。エルサレムから遠く離れた日本ですが、実は中世から近代にかけて、多くのユダヤ人が日本を訪れていました。彼らの物語をご紹介いたしましょう。

### 1500-1850 : 聖書の教えを日本へ伝えた人々

仏教・神道の国である日本に聖書の教えが伝わったのは1549年だった。カトリック教会は日本に多くの宣教師を送り込んだが、中にはユダヤ系の人も少なくなかった。その一人はポルトガル出身のルイス・デ・アルメイダである。彼は医者で、1557年に九州の大分に来て医術を教えた。大分市には彼の名を冠した病院がある。その後幕府は鎖国政策を取り、キリスト教は禁教となり三百年の時が流れる。

1846年、再び沖縄の地にキリスト教を伝えたベルナルド・ベッテルハイムもまた、ハンガリー出身のユダヤ人だった。彼は旧約聖書のヘブライ語に精通し、天才的な語学力で短時間に現地の言葉を覚え、人々に聖書の教えを伝えた。彼はまた新約聖書を日本語に翻訳した。主に沖縄の護国寺で活動したので、そこに彼の記念碑が残されている。

\*ベッテルハイムは日本併合前の琉球に来た最初のプロテスタントの宣教師である。現在、沖縄県那覇市の護国寺境内にある記念碑は、誰でも見ることができる。彼は最初、聖書を琉球語に翻訳したが、後に一部を日本語にも翻訳した。

### 1851-1880 : 函館・長崎・横浜・神戸が開港

その後、日本はまだ鎖国政策を続けていたが、1854年にマシュー・ペリー提督が来航し、開国を迫る。この時にペリ

一の通訳となったのが、沖縄にいたベッテルハイムだった。その後日本は、函館、長崎、横浜、そして神戸を開港し、外国との貿易を開始した。これらの港には外国の商人が住むようになったが、その中には、すでに東アジアにネットワークを築いていた多くのセファラディ系ユダヤ人たちがいた。

\*ユダヤ人は、東欧系のアシケナジとスペイン・中東系のセファラディに分かれるが、最初に日本に来たのは主にセファラディだった。長崎、横浜、神戸に関しては本文に説明があるが、函館にもユダヤ人が来た。その一人は、函館外人墓地に眠るルートヴィヒ・ハーバー(Ludwig Haber)である。彼はドイツ系で、アシケナジだったと見られる。攘夷派の武士によって殺害されたという複雑な背景があり、ここでは割愛している。

### 1881-1906 : ロシアの迫害を逃れて日本へ

その後、19世紀後半になると帝政ロシアではポグロムが激化し、それを逃れたユダヤ人たちが長崎にやって来た。オーストリア人実業家、シグマンド・レスナーは彼らの指導者となり1896年にシナゴグ「ベス・イスラエル」を設立した。その共同体は20世紀初めまで存続し、彼らの墓は長崎市の坂本国際墓地に残されている。

ポグロムが続く中、日本は1904年にロシアと日露戦争を始めた。ユダヤ人を迫害するロシアに怒っていたユダヤ人実業家ヤコブ・シフは、仲間に呼びかけて日本を財政支援し、勝利に導く。この経験は日本人に「ユダヤ人は味方」という意識を与えたと指摘する人も多い。

この戦争で、7万人以上のロシア兵が捕虜として日本に来たが、その多くは意志に反して徴兵されたユダヤ人だった。その中でも最も有名な人物は、後にイスラエル建国のために戦って死に、今も英雄として尊敬されるヨセフ・トランペルドールだ。彼は大阪の浜寺俘虜収容所(現在は高石市)に収容されていた。

\*大阪府泉大津市の春日墓地には浜寺収容所で死去したロシア兵の墓があるが、その中にはトランペルドールの親友とされる人物の墓もある。

### 1907-1938 : 関東大震災とユダヤ人

ほどなく第一次世界大戦(1914-1918年)が勃発するが、その間にロシアでは革命(1917)が起こる。迫害を恐れたユダヤ人たちはシベリアを横断し、船で日本海を渡り、横浜経由で米国に逃れた。その数は、数千人だったとも言われる。

当時、横浜にはユダヤ人コミュニティがあり、シナゴグもあった。横浜の外国人墓地には彼らの墓が残されている。しかし彼らは、1923年に起こった関東大震災で壊滅的な打撃を受け、多くは神戸に移住した。神戸には、すでにセファラディ系のユダヤ人が住んでおり、シナゴグもあったという。そこに移住して来たアシケナジ系のユダヤ人たちも、1937年に独自の協会(後のJEWCOM)を設立した。

\*ロシア革命を逃れて日本に来たロシア人は「白系ロシア人」と呼ばれる。その中には多数のユダヤ人がいたと言われる。

### 1939-1945 : 日本に来たユダヤ難民

1939年、ドイツとロシア(当時のソ連)がポーランドを侵略して分割占領した。これが第二次大戦の始まりとなった。東欧のユダヤ人たち、特に国を失ったポーランド系の人々は困難に直面した。日本の外交官、杉原千畝は彼らを助けた。彼が独断で発給したビザを使い、1940~1941年に数千人のユダヤ難民たちが鉄道でシベリアを横断し、船で日本海を渡り、敦賀市に到着した。敦賀市には、彼らの到着を記念する「人道の港 敦賀ムゼウム」という記念館がある。

日本政府が反ユダヤ主義のナチスと軍事同盟を組んだのは良くなかったが、日本政府はユダヤ人抹殺を求めるナチ

スの要求には最後まで応じなかった。

また、政府の方針に反してビザを発給した杉原千畝は、日本人で唯一、「義なる異邦人」の称号を与えられている。彼の功績は、近年、日本でも注目を集めており、出生地とされる岐阜県八百津町と、出身校である愛知県の瑞陵高校に記念施設が造られている。

\*第二次大戦はヨーロッパ戦線で始まり、2年余り遅れて日本が参戦した。その期間に、東欧からユダヤ難民が中国や極東に避難することができた。彼らのために杉原千畝が発給したのは「通過ビザ」だったが、それは最終目的地が無ければ発給できなかった。彼らに最終目的地(オランダ領キュラソー、現地発音ではクラサオ)のビザ(形式は整っていたが、実際には使えなかった)を発給したのはオランダの外交官、ヤン・ズワルテンダイク(Jan Zwartendijk)で、彼も「義なる異邦人」の称号を得ている。

## ユダヤ難民を助けたクリスチャンたち

敦賀にきた難民たちの一部は横浜に向かうが、大半は神戸に向かった。神戸のアシュケナジ系ユダヤ人協会(JEWCOM)は、アメリカ・ユダヤ人共同配給委員会(JOINT)の財政支援を得て難民たちの世話をしたが、それは容易なことではなかった。

そこで神戸のユダヤ人たちは、「きよめ教会」という日本のキリスト教会の人々に助けを求めた。この教会は、中田重治によって設立され、イスラエルが選民であると信じ、彼らのシオンへの帰還を祈る「クリスチャン・シオニスト」の先駆的な教会だった。

彼らは聖書の教えに従い、1930年頃からユダヤ人のために祈っていた。そこへ突然、数千人のユダヤ難民がやって来たことは、彼らにとっても大きな励みだった。そこで、教会指導者の斎藤源八と瀬戸四郎は全国から献金を募り、組織的に救援活動を行った。

ある難民は瀬戸四郎に感謝し、持っていたトローラーのミニチュアを贈ったという。瀬戸は、一部の難民たちと戦後も文通を続け、彼らのために祈った。

ユダヤ人に好意的だったのは、きよめ教会のメンバーだけではなく。神戸のクリスチャンの仕立屋が、難民たちのコートを無料で修理したとの話も伝わっている。

\*JOINTはJDC(Joint Distribution Committee)が正式名で、現在もお活動を続けている。この時期に日本を通過して行った難民たちに関する詳細な資料が同団体のサイトで公開されている。クリスチャンの仕立屋の話は、妹尾河童氏の自伝的小説「少年H」に登場する。

## 神戸における難民の暮らし

合計約五千人の難民たちの行先国を見つけるのは容易ではなかったが、彼らは北米、南米、オーストラリアなど各国の入国許可を得て、順次、旅立って行った。

彼らの神戸滞在は何か月にも及んだが、生存者の証言や、当時の新聞記事などからは、彼らが比較的平穏な暮らしをしていたことが伺える。難民たちと神戸市民が文化交流を楽しんだ記録もある。

神戸市には、難民たちが到着した三ノ宮駅、ユダヤ人協会(JEWCOM)跡の石垣、税関、出航した突堤などが、当時の面影をとどめる形で残されており、訪問することができる。

\*当時をしのぶことができる場所の情報提供や案内などを行っている「神戸ユダヤ難民研究会」というグループもある。

## 横浜に来たユダヤ難民たち

敦賀に着いたユダヤ難民たちの一部は、横浜に向かった。当時の新聞には、船待ちをするユダヤ難民たちで市内のホテルが満室になった様子が報じられている。

横浜経由で逃れて行った難民の中で最も知られた人物は、イスラエルの建国に参加し、宗教大臣となったゾラフ・バルハフティクだろう。彼は神戸と横浜を往復し、他の多くの難民たちの世話をした。やがて彼自身も家族と共に船で米国に向かうが、その時に彼らが乗船した氷川丸は、今も横浜市の山下公園前に係留され、博物館となっており、往時をしのぶことができる。

\*横浜は長年にわたり多くのユダヤ人が住み、外国人墓地にはユダヤ人区画もある。杉原ビザで難民として横浜を通過した後、戦後に横浜に戻ったジョーゼフ・シムキン氏の墓もある。

## 行先の無い難民は上海へ

1941年の夏には戦争が迫り、難民たちの暮らしを支えたJOINTからJEWCOMへの送金が不可能となる。残っていた約千人の難民は全て上海に移送され、そこで1945年の終戦を迎えた。その中で最大のグループはミール神学校(現在もエルサレムに本部がある名門イエシバの一つ)である。

一方、もともと日本に定住していた主にセファラディ系ユダヤ人たちの一部は郊外に疎開するなどして終戦を迎えた。その語、彼らは戦災復興事業に参加し、ビジネスを再建した。

\*上海は当時、日本軍の支配下にあり、ヨーロッパ各地から様々なルートで避難して来た約2万人のユダヤ人たちが生活していた。上海市には上海犹太难民纪念馆がある。なお、日本が中国や満州を支配していたことに関しては、否定的な意見を持つ人もいるので説明する際には注意したい。

## 1946-2024：再興されたイスラエルと日本

ホロコーストを生き延びたユダヤ人たちは、二千年ぶりにユダヤの地に帰り、国家再興を目指した。1947年、国連総会はパレスチナをユダヤ人国家とアラブ人国家に分割することを決議。これにもとづき、イスラエルは1948年に独立を宣言した。日本はすぐにイスラエルと外交関係を樹立し、1963年には大使を交換。その後も両国の関係は深まっている。

2011年3月、東日本大震災が起こった時、真っ先に救援に駆けつけてくれた国の一つがイスラエルだったことは、多くの日本人は今でも覚えている。イスラエルの救援チームと共に通訳として働いたボランティアの中には多くのイスラエルを愛するクリスチャンがいた。彼らが活動した宮城県南三陸町とイスラエルの交流は今も続いている。

イノベーションが得意なイスラエル人と、決まったことを正確にするのが得意な日本人のビジネス面での協力は大きな可能性を秘めている。先端的な農業技術はイスラエルの得意分野の一つだが、その日本での応用を目指した第一回の共同セミナーが、2021年にJETRO(日本貿易振興機構)の主催によって北海道の札幌で開催された。

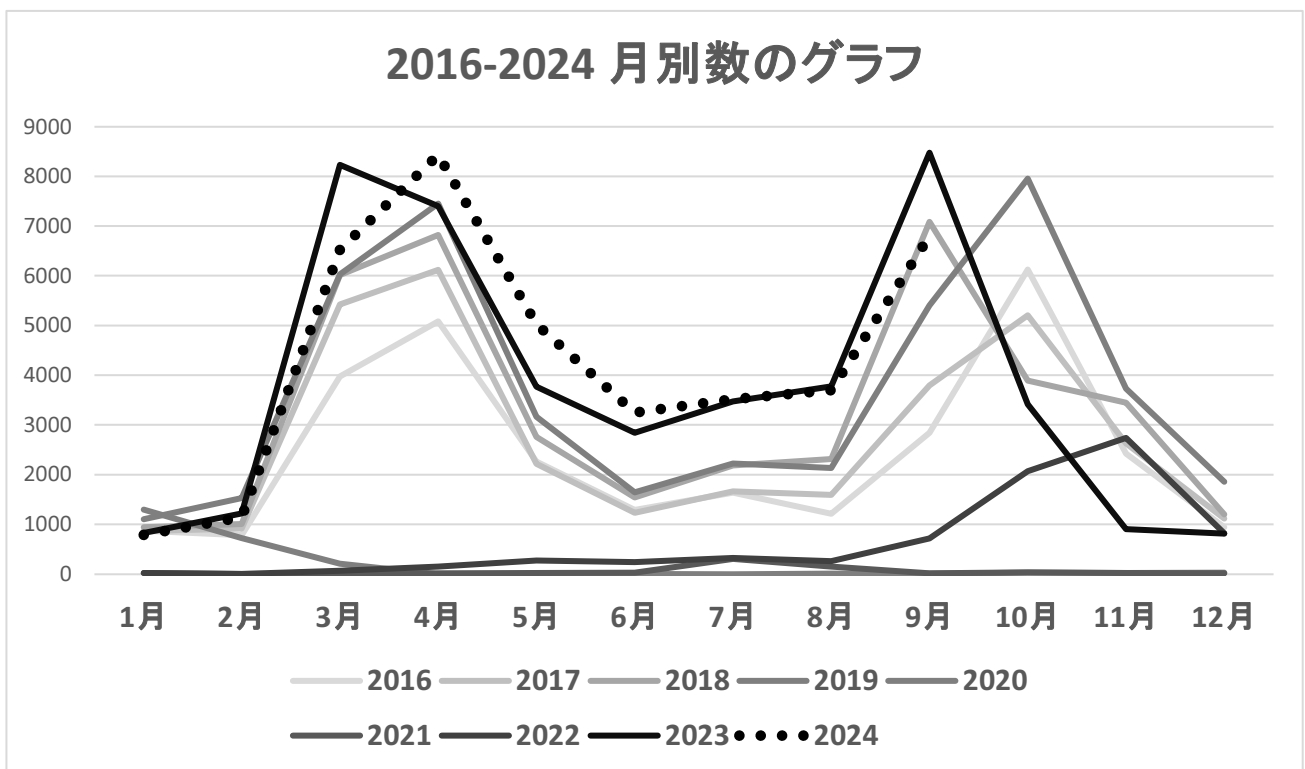
日本を訪れるイスラエル人観光客も増えている。私たちは両国の関係が今後もさらに発展することを願っている。

## 日本のクリスチャンからのメッセージ

新約聖書は、ユダヤ人によって、ユダヤ人のために書かれた書で、しかも世界で最も数多く印刷された書物です。新約聖書の冒頭には、ユダヤ人の父祖たちの名前が並び、重要主題である安息日、預言、律法、約束、神、メシアなどは、すべてユダヤ的な概念です。これらは、日本人にとっては非常に難解ですが、あなたがユダヤ人なら、何の苦も無く理解できるでしょう。ぜひ一度、新約聖書を読んでみて下さい。きっと、新しい発見があるはずです。

# 訪日イスラエル人の数（日本政府観光局の統計）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
2016	871	782	3973	5081	2262	1291	1634	1211	2842	6126	2424	939	29436
2017	867	918	5422	6119	2214	1229	1661	1592	3791	5206	2627	1112	32758
2018	942	1003	6013	6822	2757	1538	2182	2311	7091	3891	3447	1196	39193
2019	1107	1524	6032	7453	3164	1644	2221	2130	5402	7956	3728	1853	44214
2020	1295	725	207	0	0	1	0	8	7	24	20	28	2315
2021	23	2	6	12	18	25	304	149	13	35	20	12	619
2022	23	4	63	147	273	239	322	256	716	2065	2744	821	7673
2023	824	1216	8229	7403	3766	2840	3474	3777	8482	3413	901	818	45143
2024	790	1139	6525	8435	5025	3245	3515	3700	6800				39200



※上記は「イスラエル人」の統計ですが、全ユダヤ人のうちイスラエルに住むのは約半数であり、訪日ユダヤ人の数は、上記の約2倍に達すると思われます。（正確な統計は無い）

※春と秋に山があるのは、過越の祭と秋の祭が日本の「ゴールデンウィーク」のように外国旅行のシーズンとなっているからです。年によって祭の時期が変わるため、それに応じてピークが移動します。

9:5 あなたがたは祝の日と、主の祭の日に、何をしようとするのか。

9:6 見よ、彼らはアッスリヤへ行く。エジプトは彼らを集め、メンピスは彼らを葬る。  
あざみは彼らの銀の宝物を所有し、いばらは彼らの天幕に。(ホセア9:5-6)